

## 第44回生涯教育講座

「認知症の人の意思を支える；精神医学的視点からの実践と課題」

成本　迅　先生（京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学）

受講者の質問と講師の回答は、下記をご参照ください。

### 【質問】

感情優位となっている患者さんに対しては、どのように応対されているのでしょうか。

### 【回答】

#### ① まず「感情の受け止め」を優先し、結論を急がない

強い感情が前面に出ているときは、情報提供や選択肢提示をしても、ほとんど届きません。

“今は話を理解する前に、まず気持ちを支える”ことを優先します。情動調整がある程度できてはじめて、本人の価値観や意向にアクセスしやすくなります。

#### ② 感情の背景にある「価値・心配・体験」を丁寧にたずねる

表面的な感情は、意思決定の妨げではなく、意思を形づくる重要な情報でもあります。この感情の背後にある理由を聞くことで、患者さんの価値観や優先順位に到達しやすくなり、その後の説明や選択肢提示が「本人に響く形」になります。

#### ③ 感情を踏まえた説明を行う

患者さんが訴える“心配のポイント”を理解したうえで、情報提供を組み直します。

気持ちに沿った情報提供にすると、患者さんが「わかつてもらえた」と感じ、意思決定に参加しやすくなります。

#### ④ 時間をおく・場面を分ける

特に高齢者や認知症の方では、その場での決定にこだわらず、短時間、複数回の対話に分けた方が、ずっと良い意思が引き出せます。